

実施計画に位置付けた成果指標

概要 背景 取組 成果 まとめ

成果指標① 週1回以上のスポーツ実施率

算出方法	市民アンケート(無作為抽出3,000人)から算出 選択肢回答者数/全回答者数			
指標の考え方	スポーツ推進計画において「する・観る・支える」の3つの観点からスポーツの推進を行うことにより、それぞれの観点で日常的にスポーツに関わる人の割合を指標とすることでスポーツ推進の取組成果を測ることができる。			
指標の目標値	34.8%(H27)	36%(H29)	38%(H33)	40%(H37)
目標値の考え方	スポーツに関わる人の割合を現状の水準よりも向上させることを目標とする。 県や横浜市においてもスポーツに関わる人の割合を現状よりも向上させる目標値が掲げられており、それらも参考に目標値を設定した。			

成果指標② 年1回以上の直接観戦率

算出方法	市民アンケート(無作為抽出3,000人)から算出 選択肢回答者数/全回答者数			
指標の考え方	スポーツ推進計画において「する・観る・支える」の3つの観点からスポーツの推進を行うことにより、それぞれの観点で日常的にスポーツに関わる人の割合を指標とすることでスポーツ推進の取組成果を測ることができる。			
指標の目標値	30.4%(H27)	31%(H29)	33%(H33)	35%(H37)
目標値の考え方	スポーツに関わる人の割合を現状の水準よりも向上させることを目標とする。 県や横浜市においてもスポーツに関わる人の割合を現状よりも向上させる目標値が掲げられており、それらも参考に目標値を設定した。			

実施計画に位置付けた成果指標

概要 背景 取組 成果 まとめ

成果指標③ スポーツを支える活動に年1回以上参加した人の割合

算出方法	市民アンケート(無作為抽出3,000人)から算出 選択肢回答者数/全回答者数			
指標の考え方	スポーツ推進計画において「する・観る・支える」の3つの観点からスポーツの推進を行うことにより、それぞれの観点で日常的にスポーツに関わる人の割合を指標とすることでスポーツ推進の取組成果を測ることができる。			
指標の目標値	5.7%(H27)	6%(H29)	8%(H33)	10%(H37)
目標値の考え方	スポーツに関わる人の割合を現状の水準よりも向上させることを目標とする。 県や横浜市においてもスポーツに関わる人の割合を現状よりも向上させる目標値が掲げられており、それらも参考に目標値を設定した。			

成果指標④ スポーツセンター等施設利用者数

算出方法	各スポーツセンター等施設の利用者数の合計値			
指標の考え方	身近なスポーツを行うことのできる施設であるスポーツセンター等の利用者数の増加は、市民のスポーツ機会の増加に取り組んだ成果として測ることができる。			
指標の目標値	2,618,847人(H26)	263万人以上(H29)	276万人(H33)	276万人(H37)
目標値の考え方	市内スポーツ施設利用者数の変化の中期トレンド(施設の開設・廃止等による大きな変動を受けていない平成22、25年度の対前年増加率約1%)をベースに、目標値を設定した。			

本市スポーツ施策(スポーツ推進計画)の全体構成

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 本市スポーツ施策は、国のスポーツ基本計画や市の総合計画に基づき(連携し)取り組む



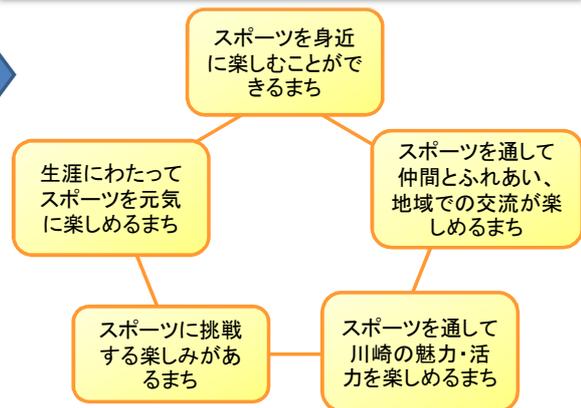
● 基本理念

「川崎でスポーツを、スポーツで川崎を、もっと楽しく」の下、スポーツを通じた市民生活の充実とスポーツを活用したまちづくりに取り組む。

スポーツには、「する」「観る」「支える」という関わり方がある。

- ① スポーツ実施率:「する」
- ② 競技場等での直接観戦率:「観る」
- ③ スポーツ活動を支える活動への参加率:「支える」

● 「スポーツのまち」を推進するための5つの基本方針



スポーツに関する本市の現状と課題

概要 背景 取組 成果 まとめ

- スポーツを「する」ことについて



◎ :各区スポーツセンター

⇒地域におけるスポーツ活動の中心的な施設。一部施設の主要設備では耐用年数が超過していることから、施設の長寿命化やバリアフリー化を図るなど計画的な整備が必要。



スポーツに関する本市の現状と課題

概要 背景 取組 成果 まとめ

- スポーツを「観る」ことについて

市民がスポーツを観る環境

かわさきスポーツパートナー※

※川崎市をホームタウンとして活躍するトップチームを「かわさきスポーツパートナー」として認定しています。試合での活躍のほか、市内小学校等でのふれあいスポーツ教室の開催や試合への市民招待、交流イベント等を通じて、スポーツを楽しめるまちづくりや川崎のイメージアップに取り組んでいます。



ゴールデングランプリ陸上川崎



国際陸上競技大会であり、今年度は、第16回世界陸上選手権大会(2017/ロンドン)の代表選手選考競技会の一つとして開催

- 川崎市は、国内有数のスポーツチームの活動拠点となっており、その試合を年間を通じて観戦することができる環境を活かし、競技場等で直接スポーツを観戦する市民を更に増やす取組を実施していく必要があります。

スポーツに関する本市の現状と課題

概要 背景 取組 成果 まとめ

- スポーツを「支える」活動について

スポーツをするにあたり、「技術力や競技力を向上させる」ことをはじめ、「他人とコミュニケーションをとる」など、様々な目的を達成させるためには、適切な助言とサポートができる指導者の存在が大変重要となります。現在、指導者不足や高齢化等の意見も多くあり、スポーツを支える人材の育成・確保が必要となります。

市民がスポーツを支える環境



研修会等を通じた指導者の育成



「川崎国際多摩川マラソン」「多摩川リバーサイド駅伝in川崎」でのボランティアスタッフの参加

- ボランティアスタッフ等として、スポーツを支える活動に参加する人の拡充を図るとともに、ボランティアリーダーとして活動できる人材を育成する必要があります。

スポーツをめぐる社会状況の変化

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 市のスポーツ推進計画策定時(平成24年9月)から、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の決定など社会状況は大きく変化している
- 本市のスポーツ施策も社会状況の変化に対応した見直しを行う必要がある

東京2020オリンピック・パラリンピック
競技大会開催決定(H25.9)

国の第2期スポーツ基本計画
(H29年度～)

英国オリンピック代表
チーム事前キャンプ
受け入れ

現計画に基づく取組とその成果
を踏まえつつ、状況の変化や
新たな課題に対応

スポーツ庁の発足
(H27.10)

かわさきパラムーブ
メントの推進

↓
スポーツ推進計画をH29改定

Bリーグ(バスケ
プロリーグ)の発足
(H28秋)

障害者スポーツの推進

川崎市総合計画
(H28年度～)

スポーツ・文化総合セン
ター開館(H29.10(予定))

これまでの主な取組① 「する」スポーツ関連

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 市民参加型の各種スポーツ大会の開催
- スポーツ推進委員(旧体育指導委員)による地域スポーツ施策の企画立案や、スポーツ活動の調整を図るコーディネート、スポーツ実技指導など地域スポーツ活動の支援
- 総合型地域スポーツクラブの自主的な運営支援や、クラブを通じた地域活動の推進
- スポーツ施設を活用した、身近な場所でスポーツに親しめる環境づくり

各種大会

川崎国際多摩川マラソン
(H28. 11月:6,145人 一部に市民枠を
設定)などスポーツ大会の実施



総合型地域 スポーツクラブ

H29. 4月: 柿生地区総合型地域スポーツクラブ
GET設立。【11クラブ目】⇒地域資源を活用した
「人づくり」「仲間づくり」等の取組の実施



身近に楽しむ機会の 創出

生涯スポーツの推進に向けた
スポーツ教室及びイベント等の実施



「生涯にわたってスポーツを元気に楽しめるまち」
「スポーツを通して仲間とふれあい、地域での交流が楽しめるまち」
「スポーツに挑戦する楽しみがあるまち」の実現

これまでの主な取組② 「観る」スポーツ関連

概要 背景 取組 成果 まとめ

- かわさきスポーツパートナーとの連携・協働によるホームタウンスポーツの推進
- Jリーグクラブと連携した魅力ある地域づくりの推進
(市制記念の市民招待をはじめ、市内小学校6年生への算数ドリル無償配布など)
- 国際陸上競技大会「ゴールデングランプリ陸上川崎」を開催(H27～)

ホームタウンスポーツの推進

- ・ホームゲームへの市民招待の実施(H28:7競技3,756人)
- ・かわさきスポーツパートナーや実業団チームによるふれあいスポーツ教室(市内小学校への出張指導(H28:6チーム143校))の実施。地域イベント、地域貢献活動への参加
- ・商店街と連携しアメリカンフットボールを活用したまちづくりの推進

Jリーグクラブ川崎フロンターレ

川崎フロンターレ後援会会員数
2016シーズン 30,904人



©川崎フロンターレ

ゴールデングランプリ陸上川崎

国際陸上競技大会の開催による、トップレベル競技の観戦機会提供とパラリンピック種目レースの実施によるパラスポーツ普及の取組(H28観客数:23,500人)



©日本陸上競技連盟提供

「スポーツを通して川崎の魅力・活力を楽しめるまち」の実現

これまでの主な取組③ 「支える」スポーツ関連

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 各種大会の運営支援にボランティアを活用
- 障害のある方もない方も一緒になったボランティア活動の実施
- 地域スポーツを支える人材の育成

●「川崎国際多摩川マラソン」や「多摩川リバーサイド駅伝in川崎」において、市民ボランティアが運営スタッフ(H28実績:296人)として運営支援に参加。さらに、H28から新たに富士通(株)からの企業ボランティアや、市立看護短期大学の救護ボランティアも参加。

●障害者がボランティアとしてスポーツに関わる機会の促進

- ・H26から健康福祉局障害者雇用・就労推進課と連携した、ボランティア全体に占める障害を持つ方の参加割合増加に向けた取組の実施。
- ・かわさきスポーツパートナーのホームゲームにおいて、障害のある方のボランティアスタッフとしての活動。

●各競技団体における生涯スポーツの普及・振興や、競技力向上を図るため、実技指導や講習会などによる指導者育成事業の実施。

●市民が幅広くスポーツに親しむ機会等を提供するため、スポーツ推進委員の資質向上に向けた研修会等の実施。

「スポーツを身近に楽しむことができるまち」の実現

これまでの主な取組④ オリンピック・パラリンピック関連

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 東京大会を契機に誰もが暮らしやすいまちづくりを進めていくため、「かわさきパラムーブメント推進ビジョン」を平成28年3月に策定。「ひとづくり」「スポーツ振興・健康づくり」「まちづくり」「都市の魅力向上」「先進的な課題解決モデルの発信」の5つの方向性に基づく取組を推進
- 事前キャンプの受け入れに向けた取組を推進

かわさきパラムーブメントの推進(スポーツ振興・健康づくり)

- 障害者スポーツ体験講座「パラスポーツやってみるキャラバン」の実施
小学校や地域の寺子屋、スポーツ大会等の場を活用し、子どもたちが障害者スポーツを体験する講座を実施(延回数23回)。
- JOCオリンピック教室の開催
市内中学校にてオリンピックを講師に迎えたJOCオリンピック教室を開催(1回)
- 全国規模の障害者スポーツ大会の開催
とどろきアリーナ、富士通スタジアム川崎などの市内施設において、アンパティサッカー、ブラインドサッカー、デフバレーなど、障害者スポーツの全国規模の大会を開催



英国事前キャンプ受け入れ

- 平成29年3月英国オリンピック委員会と事前キャンプに関する契約を締結(対象施設:等々力競技場、予定競技:陸上競技、サッカー、7人制ラグビー)
- 公開練習や市民を対象とした種目別トレーニングキャンプも実施の予定
- 横浜市、慶應義塾大学も英国代表チームの事前キャンプを受け入れる



目標達成した成果指標

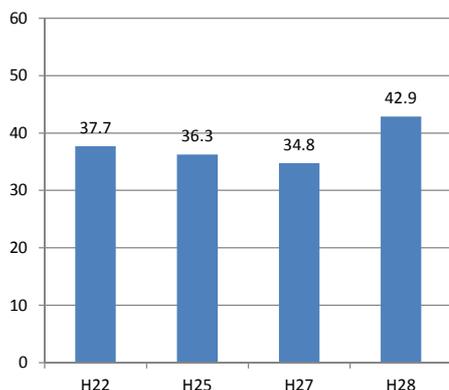
概要 背景 取組 成果 まとめ

①週1回以上のスポーツ実施率、④スポーツセンター等施設利用者数

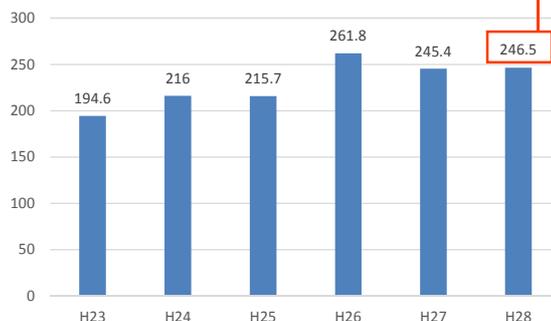
- 週一回以上のスポーツ実施率は、目標値を大きく上回って達成しており、順調に推移しています。これは、スポーツに関連する各事業の成果のほか、社会状況として、市民の健康づくりへの関心が高まっていることや、リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック競技大会が開催されたことによるスポーツに対する機運の上昇により、実施率の向上につながったと考えます。

※部会時点の見込み値であり、確定値は以下のとおりです。
スポーツセンター等施設利用者数(H28)確定値:259.9万人

週1回以上スポーツ実施率(%)



スポーツセンター等施設利用者数(万人)



H27、H28は、H26.12月からの川崎市体育館の建替による施設減の影響(H25実績:23.2万人)により、利用者数が減少している。

成果指標①の達成状況

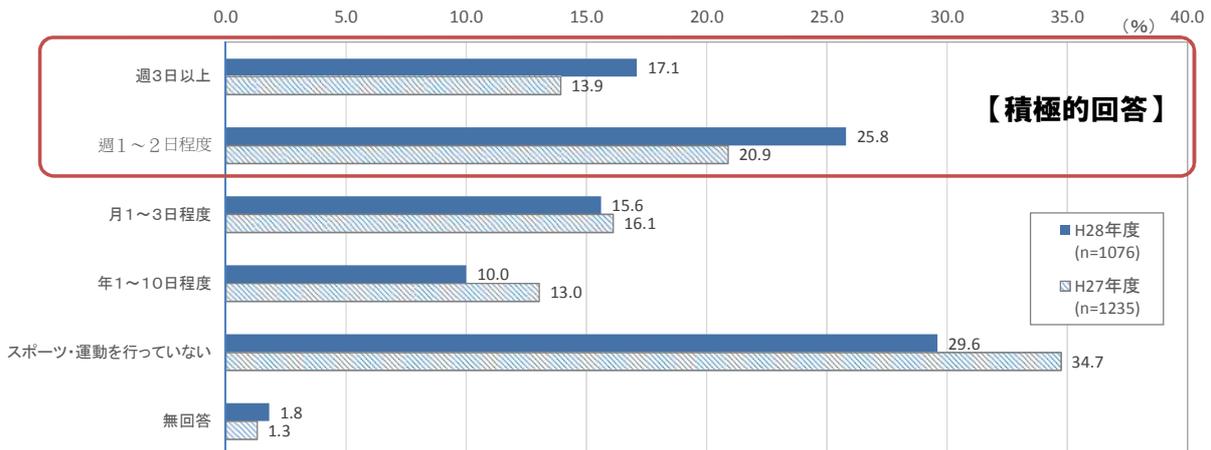
概要 背景 取組 成果 まとめ

週1回以上のスポーツ実施率

- 市民アンケート(無作為抽出3,000人)の「週1回以上スポーツを行っている」と答えた人の割合を成果指標としており、平成28年度の実績については、前回調査の現状値を7.3ポイント上回りました。

	H28
目標	35.6%
実績	42.9%
現状値	34.8%(H27)

設問の内容 あなたのスポーツ・運動に関する意識・取組をお伺いします。あなたは、過去1年間で、どの程度の頻度でスポーツ・運動を行いましたか。

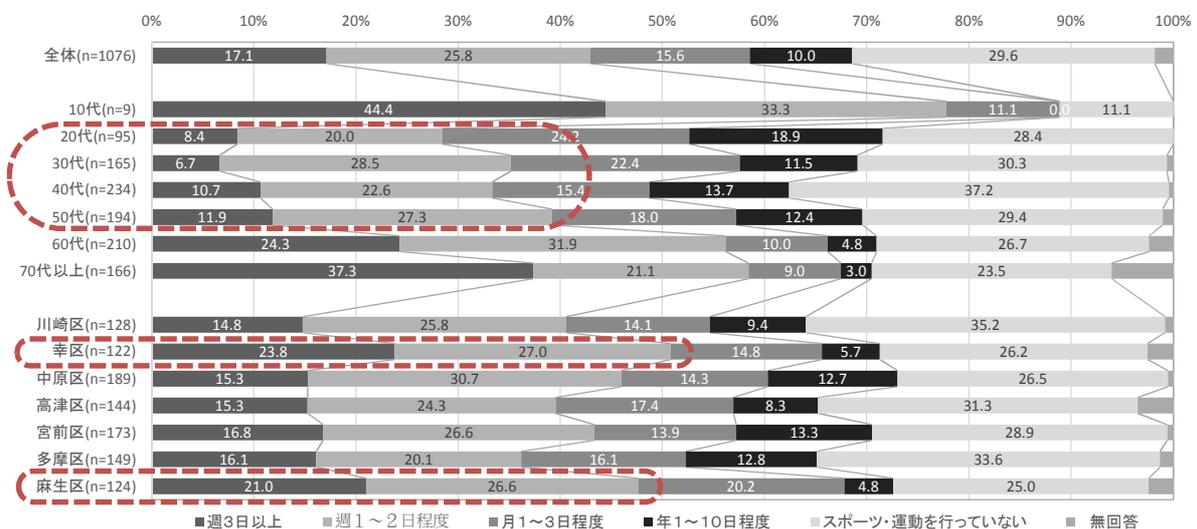


成果指標①の成果分析

概要 背景 取組 成果 まとめ

週1回以上のスポーツ実施率

- アンケートについて、年代別、区別のクロス集計の結果をみると、年代別では、**20～50代**で、**積極的**の割合が低く、区別では、**幸区、麻生区**において、**積極的**の割合が高くなっています。
- **週1回以上スポーツを行っている**人が実施しているスポーツについては、**散歩・ウォーキング・ジョギング**に関する回答が多く見受けられ、その他としては、**ヨガ、テニス、水泳**などの回答が多くなっています。
- 消極的**回答(スポーツ・運動を行っていない)**の中では、**仕事や育児**がありスポーツを行う時間や機会がないなどの意見が多く見受けられます。

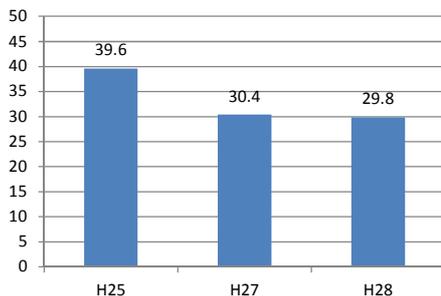


未達成の成果指標(②③)

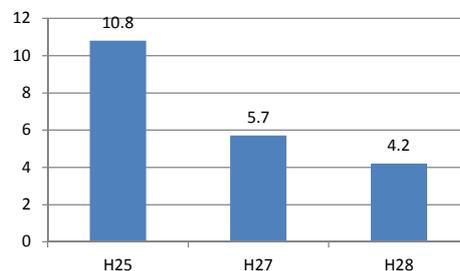
②年1回以上のスポーツ観戦率、③スポーツを支える活動に年1回以上参加した人の割合

- スポーツ観戦率については、平成28年度は川崎フロンターレの年間を通じた好成績、リオ五輪開催により、Jリーグホームゲームやゴールデングラプリ陸上の観客動員数は好調(対前年増)であったにもかかわらず、アンケート結果は対前年微減となりました。本市ではスポーツに関心があり観戦にまで行く層がまだまだ限られていて無作為抽出(全市人口に対する回答率としては0.1%)の有意な変化が出るほどの広がりがないからであると考えます。
- スポーツを支える活動(スポーツ大会の運営支援、地域のスポーツ活動の指導者や手伝い等)に参加した人の割合については、目標を下回りましたが、これは、スポーツを支える活動に対する市民意識の醸成が進んでいないことが主な要因であると考えます。

年1回以上の直接観戦率(%)



年1回以上スポーツを支える活動への参加率(%)



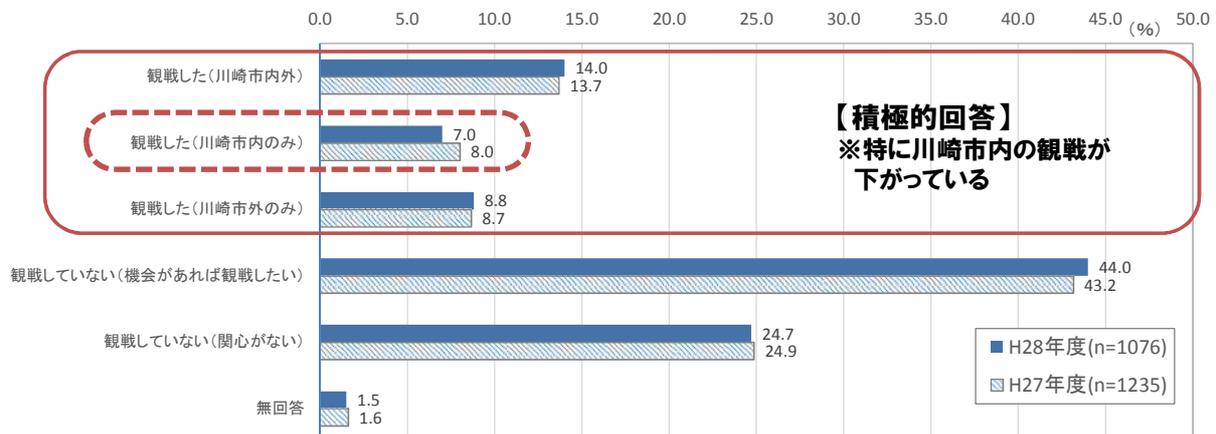
成果指標②の達成状況(目標未達成)

年1回以上のスポーツ観戦率

- 市民アンケート(無作為抽出3,000人)の「過去1年間に実際にスポーツを観戦した」と答えた人の割合を成果指標としており、平成28年度の実績については、平成27年度に行った前回調査から0.6ポイント下がりました。

	H28
目標	30.8%
実績	29.8%
現状値	30.4%(H27)

設問の内容 あなたは、過去1年間で実際に競技場などに行ってスポーツ観戦をしましたか。

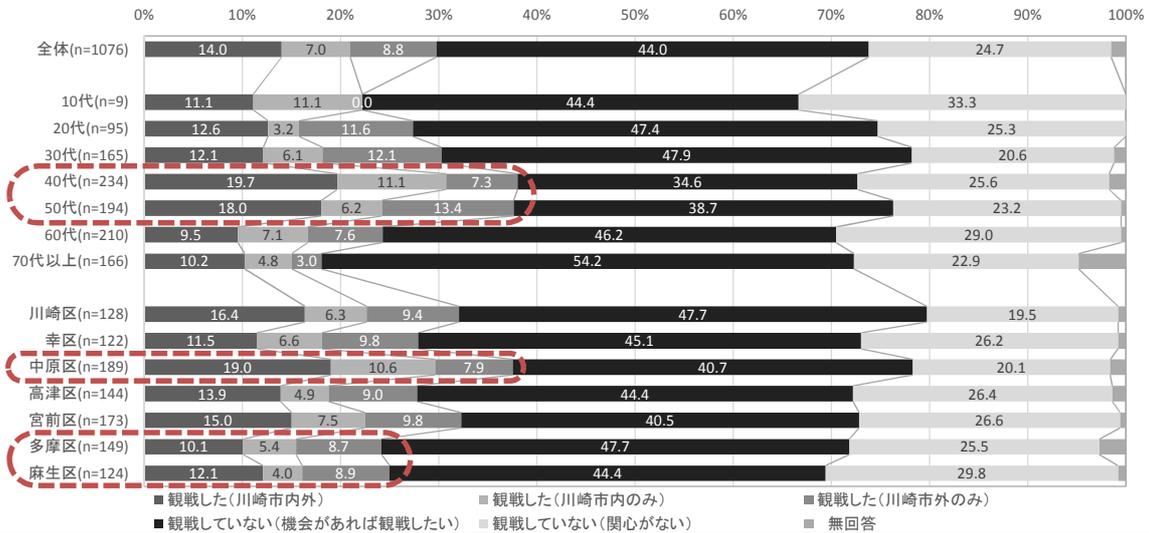


成果指標②の成果分析

概要 背景 取組 成果 まとめ

年1回以上のスポーツ観戦率

- アンケートについて、年代別、区別のクロス集計の結果をみると、年代別では、40・50代で、積極的回答の割合が高く、区別では、中原区において、積極的回答の割合が高く、一方、多摩区、麻生区において、積極的回答の割合が低くなっています。
- 観戦している競技については、市内観戦では、フロンターレなどのサッカー観戦の回答が多く、市外の観戦では、野球観戦の回答が多く見受けられます。
- 消極的回答(観戦していない(機会があれば観戦したい))の中では、時間や機会がない、また仕事が多忙などの回答が多く見受けられます。



成果指標③の達成状況(目標未達成)

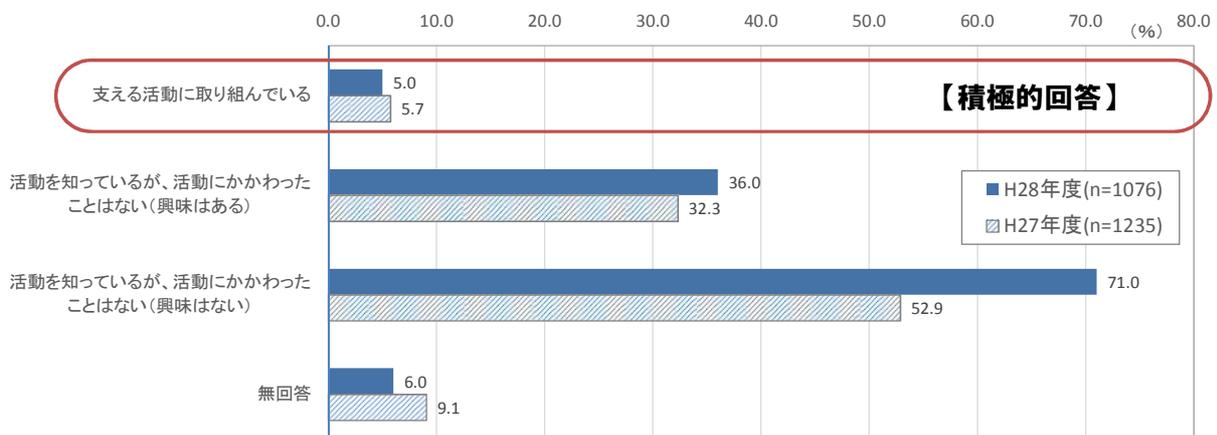
概要 背景 取組 成果 まとめ

スポーツを支える活動に年1回以上参加した人の割合

- 市民アンケート(無作為抽出3,000人)の「スポーツを支える活動に取り組んでいる」と答えた人の割合を成果指標としており、平成28年度の実績については、平成27年度に行った前回調査から1.5ポイント下がりました。

	H28
目標	5.9%
実績	4.2%
現状値	5.7%(H27)

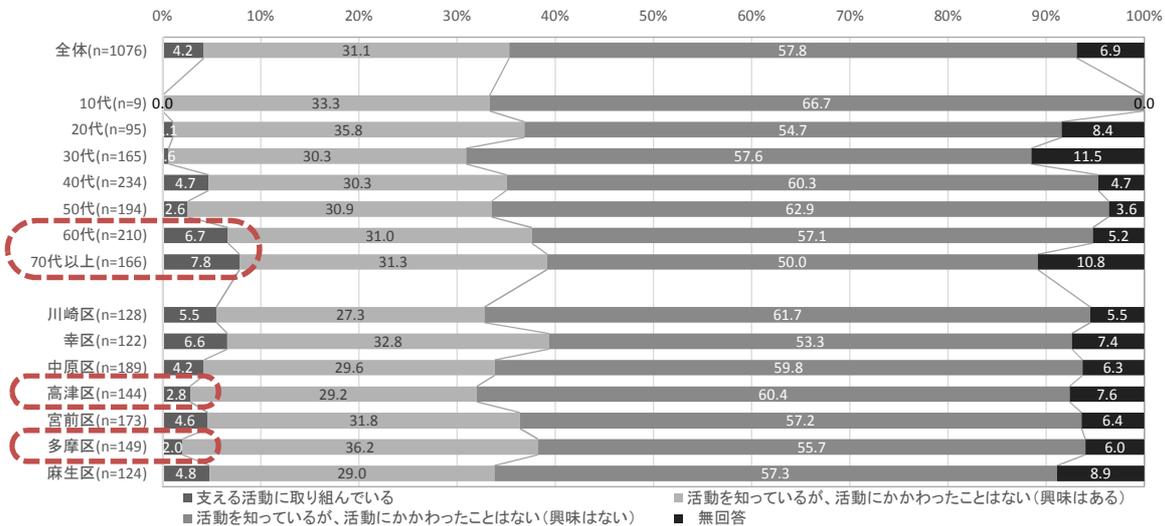
設問の内容 スポーツを支える活動に関する取組について、お伺いします。



成果指標③の成果分析

スポーツを支える活動に年1回以上参加した人の割合

- アンケートについて、年代別、区別のクロス集計の結果をみると、年代別では、**60・70代で、積極的**の割合が高く、区別では、**多摩区、高津区**において、**積極的**の割合が低くなっています。
- 支える活動に取り組んでいるものとしては、**野球やサッカーのコーチ、地域の運動会への参加**などの回答が見受けられます。
- 消極的**回答(活動を知っているが、活動にかかわったことはない(興味はある))**の中で多い回答として、**時間や機会がなく参加できない、活動を知らない**などの意見が見受けられます。



その他定性的な効果

社会的な好影響

- かわさきスポーツパートナーが各リーグ戦や日本選手権大会などで好成績を上げたことにより、メディアに多く取り上げられ、平成28年の川崎10大ニュースに川崎フロンターレ関係のニュースが3位に選ばれるなど、市民がスポーツを身近に感じることができる環境づくり、市としての一体感の醸成に成果がありました。

【各チームの主な戦績】

- ・川崎フロンターレ【サッカー】
J1リーグ年間 3位 / 第96回天皇杯全日本選手権大会 準優勝
- ・川崎ブレイブサンダース(旧東芝ブレイブサンダース神奈川)【男子バスケットボール】
Bリーグ2016-17中地区首位、第92回天皇杯準優勝、NBL2015-2016シーズン 優勝
- ・富士通フロンティアーズ【アメリカンフットボール】
アメリカンフットボール全日本選手権 第70回ライスボール 制覇
- ・NECレッドロケッツ【女子バレー】
2016/17 V・プレミアリーグ優勝

【平成28(2016)年川崎市10大ニュースの投票結果】

- ・3位 「川崎フロンターレ20周年、明治安田生命2016Jリーグチャンピオンシップ進出、風間監督今季で退任」
- ・11位 「東芝ブレイブサンダース神奈川がNBL優勝、新たにBリーグ・川崎ブレイブサンダースが始動」

施策の進捗状況

概要 背景 取組 成果 **まとめ**

施策の進捗状況 B 一定の進捗がある(目標達成に向けて進捗している)

理由

- ①成果指標について、スポーツを支える活動に参加した人の割合は、目標を下回りましたが、スポーツ実施率が、目標値を大きく上回って達成するなど順調に推移していることから、総合的には、目標達成に向けて進捗していると考えます。
- ②配下の事務事業の取組は、掲げた目標どおりに進捗しています。

【施策の進捗状況区分】 A 順調に推移(目標達成している)、B 一定の進捗がある(目標達成に向けて進捗している)
C 進捗は遅れている(目標達成が遅れる可能性がある)、D 進捗は大幅に遅れている(目標達成が難しい可能性がある)

施策の今後の方向性

概要 背景 取組 成果 **まとめ**

今後の方向性 II 概ね効果的な構成である(一部見直し等の余地がある)

理由

- ①事業構成は、各事業が施策の推進に貢献しており、概ね効果的な構成であると考えますが、社会環境の変化や施策の進捗状況を踏まえ、引き続きスポーツ団体等の多様な主体と連携しながら、取組を推進してまいります。
- ②障害のあるなしに関わらず、スポーツを通じて交流ができる環境づくりや、様々な事業を通じた魅力発信に取り組むなど、障害者スポーツの普及・促進を図るとともに、スポーツ施策として一体的に推進し、スポーツを通じたインクルーシブ(誰もが排除されない)なまちづくりを進めてまいります。

- ③オリンピック・パラリンピック推進事業については、英国オリンピック代表チーム事前キャンプ実施に向けて、様々な分野における英国との交流事業やおもてなしの取組を企画実施するとともに、「かわさきパラムーブメント」の理念のさらなる浸透を図りながら市民を巻き込んだムーブメントとして取組を実践していきます。
- ④スポーツを支える活動については、事業手法の工夫や市民への普及啓発により、支える活動に対する意識を醸成し、参加する人の割合増加に向けた取組を進めます。

【今後の方向性区分】 I 効果的な事業構成である（現状のまま継続する）、II 概ね効果的な構成である（一部見直し等の余地がある）
III あまり効果的な事業構成でない（見直し等の余地が大きい）、IV 事業構成に問題がある（抜本的な見直し等が必要である）



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市